

2024 (令和6年) 2月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 06-6364-4156 (編集責任者: 広報部 室井)

自然の中で遊ぶ楽しみを次世代へ

新年あけましておめでとうございます。

昨年でコロナ関連の規制も緩和され、街中に人が溢れてきました。来年には大阪で二度目の万国博覧会が開催される予定で、ますます人の流れが活発になるでしょう。湾岸地区の夢洲で開催されるので、海辺への立ち入りが半年以上禁止される場所も計画されていますので、釣りに出かけられる際にはご注意ください。

さて、釣りだけに限らず我が国の自然界に重大な悪影響を及ぼすことが分かってきた「ネオニコチノイド系の農薬」への注目が高くなっています。田畑から川に流れ、海まで悪影響を与えている事実が多くの大学の研究で明らかになってきました。

大阪府釣りインストラクター連絡機構代表

綿井良隆



河川や海辺の対象魚が少なくなっている感覚は、釣りの愛好者は実感されているのではないのでしょうか。

私の経験でも、上流に田畑が無いフィールドでは対象魚が減るところか増えている実感を強く感じています。この農薬は家庭でもガーデニング用品やペット用品にも多く使われていますので、釣りのみならずアウトドア活動を楽しまれている方は、特に注意して購入していただくをお願いいたします。

自然の中で遊ぶ楽しさを次世代に伝えるために、少しでもできることを実践していこうではありませんか。

2024年度 釣りインストラクター活動参加へのお願い



当会報でもご紹介しておりますが、JOFI大阪では毎年、さまざまなイベント・事業に公認釣りインストラクターとして協力参加しています。ただし近年、協力メンバーの固定化、少数化が進み、このままでは個人の負担が大きくなるばかりでなくJOFI大阪としての活動の幅も制限されるようになるかもしれません。そこで公認釣りインストラクター資格保有者であるみなさまに活動参加のお願いを申し上げる次第です。**注) 活動参加は公認釣りインストラクター資格保有者のみです。**

特に難しいことはなく、たとえば釣り教室では参加者が一日、安全に魚釣りを楽しめるように手助けするのが主です。そのほか釣り場環境保全事業への協力参加(ゴミ拾い等)など、釣り人であれば楽しく活動できるものばかりかと思えます。

「そう言われてもなあ…」。そんな参加への不安を無くす良い方法があります！

<その1> 総会に参加してみる

この3月24日(日)に総会が予定されています。かたくなしい集まりではありませんので、お気軽にご参加ください。昨年度の活動報告や今年度の大まかな活動予定などがわかるかと思います。

<その2> 連絡会(役員会)に参加してみる

2ヵ月に1度のペースで、連絡会(役員会)を実施しています。2ヵ月先のイベントや事業の詳細がわかるとともに、協力参加者の募集もおこないます。JOFI大阪の役員の大半は出席しておりますので、内部事情もよくわかるかと思います。JOFI大阪会員であれば誰でも出席できます。

<その3> 日曜日の午前中に大阪南港魚釣り園護岸に行ってみる

日曜日9:00から11:00まで、数名のインストラクターが大阪南港魚釣り園護岸の巡回と初心者への釣り指導をおこなっていることが多いです。魚釣りがてらお越しになり、見掛けたならお声がけください。いろいろとご案内させていただきます。

<その4> JOFI大阪ホームページから問い合わせしてみる

ホームページ右上の「お問い合わせ」をクリックして、なんでも気軽におたずねください。 よろしくお願ひします。

JOFI大阪が
取り組むSDGs

http://jofi-osaka.com



令和5年度の活動紹介

報告 1

フィッシングショー大阪2023 船釣り教室に講師応援 (R5-2/3・4・5)

2023年2月3日（金/業者日）4日（土）5日（日）開催のフィッシングショー大阪で、4名のJOFI大阪釣りインストラクターが4号館「体験仕掛&釣り方教室」を担当。「季節ごとに変わる船釣りの基本」を講義しました。

「船釣り教室」は、故来田仁成先生がご存命の頃からJOFI大阪が担当しており、今回初めて講師として参加する私は、長年引き継がれてきた資料の読み込みから始めました。船釣りは関東、関西共に15年ずつの経験があり、メディアでも四季折々の釣行記のライティングさせていただいており、基礎知識はあったのですが、当資料は私の知らない船釣りの歴史などが事細かに記載されており、要旨まとめだけで面白く、勉強になるものでした。

当日の講義では、1900年のパリオリンピックで釣りが正式競技であったことを高木事業部長が、国会図書館に出向いて調べられた資料と共に示され、「100年前のフランス語はチンプンカンプン」といったくどりが受講者の皆さんの笑いを誘っていました。

実釣については小川インストラクターが紀淡海峡のオニアジ釣りの話、山本インストラクターが串本の寒グレ釣りの話を紹介され、四季折々の釣魚と釣法の紹介に皆さん聞き入っておられました。私も仕掛けの素早い作り方や、船釣りの一般的な操船などを説明。1回の講義参加者は15名、2日間4回のべ60名以上の方々に喜んでいただき、たいへん光栄な2日間を過ごせました。

講義後、「何年も前からフィッシングショーには来ていましたが、もっと早くこの講義を受ければよかった」と言っていたのが一番嬉しかったことです。来年度も良い講義ができますように、さらに研鑽を深めたいと思います。

（報告：南）



報告 2

フィッシングショー大阪 2023 体験マス釣りにサポーター協力 (R5-2/3・4・5)

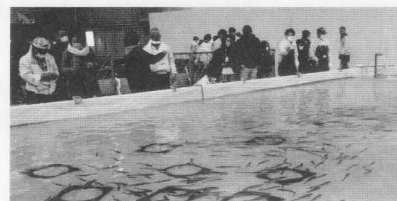
2023年2月4日（土）・5日（日）の2日間、インストラクター3名で、フィッシングショー大阪4号館イベントコーナーの体験マス釣りに協力してきました。

協力内容は参加者の釣りのサポートですが、1回15分、各日20数回。ほぼインターバル無しでサポートの連続。しかも、小さなお子さんが大半であり、朝早くから並んでチケットを購入してくれたのに0匹ではかわいそうだと全力でサポートしました。「魚釣りはしたことある？」と訊くようにしましたが、さすがフィッシングショーだけあり、ほぼ全員が釣りの経験はあるとのこと。数年前にこのマス釣りをしてから釣りにハマったという中学生

もおられました。

マスが釣れた時のみなさんの心からの笑顔を見て『釣りってやっぱりすごいなあ』とあらためて実感。お子さんと一緒に参加されていたお母さんなんて、子どもみたくにはしゃいでおられたし、そういうのを見ると（ああ、いいなあ）（よかったなあ）と、大変だったけれど元気にもなれた不思議な2日間でした。

（報告 室井）



報告 3

大阪湾クリーン作戦に参加 (R5-6/4)

今年も『大阪湾クリーン作戦』にJOFI大阪から5名が参加しました。

放置ゴミに対する意識が高まり、ゴミも少しは減少しているかと思いつつ、阪神高速で現地へ。集合時間の15分前に付きましたがメンバーは全員集合済みで、受付も済ませてくれていました。

日本釣振興会大阪府支部（主催）橋本俊哉支部長の開催挨拶後、清掃区域の指示や清掃用具などが配布されました。放置ゴミは前年より少なく見えたが、悪臭は例年と変わらず。今年は使用済みのガスボンベが多く、

紙ケースに入ったまま放置されている物もありました。

通行の邪魔にならない場所へゴミを集め10時前に終了。集合写真を撮影し解散となりましたが、来られていた釣り人の応援は今年も残念ながらありませんでした。

今回は、一般のご家族連れの子ども達を含め107名の参加協力があったとのこと。ごくろうさまでした。

（報告 物部）



日本ボーイスカウト 大阪連盟釣り章考査会 座学を実施 (R5-7/17・29)

7月17日(祝)1名、29日(土)16名の受講者で実施。国旗を掲揚して開会式が行われ、インストラクターに「技能章考査員委嘱状」が渡された後、順次自己紹介をしました。

午前のプログラムは「釣りの基本」「安全とルール・マナー」「釣りに必要なもの」等ですが「釣り以外で魚を捕らえる方法」や「釣りで使われる特殊な言葉」に関心が高かったようでした。

午後には120分かけ、仕掛け等を作る実習に入りました。プラスチックボトルを活用した「モンドリ」づくりはボーイスカウトかわち地区スカウト委員長が講師となり実施。私達は「八の字結び」「電車結び」「クリンチノット」を活用した「胴付き仕掛け」の実習を指導し、全員が「胴付き仕掛け」を作成することができました。

最後は「理解度テスト」。採点時に考査員と受講者が

話し合い、未回答や間違いを双方で検討し、解答を受講者が導き出せるように配慮し、全員合格となりました。

閉会式では大浦インストラクターの講評で締めくくり無事終わることができました。終了後には日本ボーイスカウト大阪連盟関係者様からのお礼の言葉もいただきました。(報告 小川)



大阪湾稚魚放流事業に協力参加 (R5-8/24)

大阪湾稚魚放流事業は40回を超える長年の継続事業であり、おかげで魚の生育が進んでいることを実感しています。

この日もメバル7,000匹(6~8cm)とキジハタ1,640匹(約12cm)を大阪釣船業協同組合(たまや渡船・ヤザワ渡船・夢フィッシング・岸和田渡船)の船に分乗し、岸和田一文字~泉大津~堺新港~大阪南港~大阪北港(新島)に放流。子どもたちや、総合学園ヒューマンアカデミー大阪校の学生たちが暑い日差しの中、やさしく稚魚たちを運び、思いを込



めて海に放つ姿には釣り人の未来を感じました。

また今回はキジハタの背びれに標識をつけたものが放流されており生体の解明とともに、より良い放流事業が続けられることが期待できます。

実は放流事業には、いろんな意見も出始めています。黒鯛(チヌ)が増えすぎによる海苔棚の食害は?釣り人のためだけでなく環境保全を考慮すべきではないか?との動画(YouTube)を視聴したことがあります。

もっと視野を広げて遊漁と漁業、それを取り巻く自然環境保全の目標に進んでいかなければいけないと感じています。市場価値と環境価値がWINWINとなった放流事業に進んでいけるように、今後はJOFI大阪としてご協力できたらと感じました。(報告 南)

日本ボーイスカウト かわち地区釣り章考査会実釣報告 (R5-9/10)

先の座学は26名の受講者でしたが、大阪南港魚釣り園まで遠方の地区は近くの波止等で実釣を実施することと11名のスカウトを対象に行なわれました。その他、引率6名、インストラクター6名、総勢24名。気温35℃、晴天無風の中、スカウトの受付は9:00から開始。開会式やライフジャケットの正しい付け方、危険な魚を再確認し、9:30から大和川尻の護岸で実釣を開始。11:00までがんばってくれました。

自作の「もんどり」を沈めるのに少し時間がかかりましたが、本日のノルマである2魚種2匹の魚を釣り上げるため、サビキ仕掛けを竿にセットし、スタート。

サビキでは、早々に小アジ・中サバが退屈しない程度に釣れてくれ、全員ノルマを達成できたので、7月17日(祝)と29日(土)の座学実習時に作成した胴突き仕掛けに変えて釣るスカウトもいました。

最終的に25cmくらいのグレなども釣れたので、全員が自作の仕掛けをセットして、釣れた魚を掴んで、クーラーに入れる一連の動作ができるようになっていました。

閉会式では、「釣りを通して魚を捕らえて食料確保できるスキルを身に付けてもらう」大切さを最後の講評でお話しさせていただき閉会しました。

(報告 大浦)



全国縦断チャリティ釣り祭り 大阪府支部が開催 (R5-9/16)

今年は猛暑続きで9月16日(土)も変わらず、水分を十分に摂り、注意しながら協力しました。

主催はNBC全国縦断チャリティ釣り祭り実行委員会。総合学園ヒューマンアカデミーフィッシングカレッジほか、34社以上の協賛がありました。

参加者は54名(内、子ども7名・大人47名)。スタッフはJOFI大阪5名、JOFI奈良3名を含む20名以上が協力されており、私達は水質調査実演と釣り支援指導による巡回を担当。水分の十分な摂取など熱中症等への注意喚起を



しながら、サビキ仕掛けの絡みの対処や危険な魚の判別などを行いました。また、

10:00より釣り場の水質調査を参加者と実施し、開会式で海水の実態を報告しました。

釣況は朝まずめにサヨリやコアジ・コサバが釣れおり、陽射しが出てからはガシラ、サヨリ、ボラ等がルアーで釣れていました。その他、サビキ仕掛けでアジ、サバも釣れていました。多数の入賞品のほかにもジャンケン大会があり、参加者は一喜一憂されていました。

陽射しの強い日でしたが、楽しい釣りを満喫された一



日だったと思います。関係者の皆さんごくろうさまでした。(報告 物部)

岬町淡輪で子ども釣り体験教室をサポート (R5-9/18)

まだ真夏の暑さが残る9月18日(月)に岬町淡輪ヨットハーバーにて子ども釣り体験教室が開催され、JOFI大阪から10名のインストラクターが協力参加しました。

子ども達は大阪府内の学習塾に通う小・中学生35名で、スタッフを含め総勢は43名。インストラクターは6:30に集合し、テント設営や竿・リール及び仕掛けのセット・アミエビや手洗いバケツ・タモなどの準備から始めます。

8:30に子ども達が到着後、ライフジャケットを着用し、熱中症や針先など注意事項と危険な魚などを説明しました。その後、6班に分かれて各班毎にインストラクターが桟橋先の波止の釣り場へ先導します。

各班毎にサビキによる釣り方の説明後、釣り開始で仕掛け投入直後からアジやサバが入れ食い状態です。魚をさ

われない子どももおり、インストラクターも大忙し。

11:00まで実釣は約2時間でしたが全員魚が釣れ、魚信を確認することができ、今年の夏の最後の思い出づくりを演出できました。当日は多少の海風もあり熱中症になることもなく、講評後、体験教室を終了。

参加された子ども達の笑顔と魚達にありがたさを感じる晩夏の日でした。(報告 小川)



寝屋川市スポーツ少年団親子 ふれあい釣り教室 (R5-9/23)

寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室をスクール生11名保護者6名、指導員5名とインストラクター5名で開催。昨年は爆釣で参加者全員が大喜びできたので、今年もぜひ協力していただきたいとの要望がありました。

サワラの釣果がインターネットで紹介されたこともあり、大阪南港魚釣り園護岸は混雑。インストラクターは7:00から20名が一緒に釣れる場所探しをしましたが大変でした。大和川側を確保し、仕掛けのセットなどをしていましたが手違いがあり、参加者の到着は9:40頃。



朝の挨拶と「すきすきフィッシング」を使った小川インストラクターの釣り教室、ライフジャケットの正しい着用方法。さらに、危険な魚を説明し、釣り場所へ移動。

班別に分かれ釣り始めましたが、8:00頃に釣れていた小アジがたまにしか釣れません。参加者は我慢強くエサを投入するも状況は変わらずお昼休みに。

午後には正面釣り場に空きができたのでたのでそちらに移動。少しするとカタクチイワシが釣れ出し、次にサバ、アジも釣れはじめ、みなさん喜んでおられました。

参加者全員、魚信に満足されたようで閉会式で「ありがとうございました」とお礼の言葉もあり、早朝より準備したインストラクターの心も天候と同じ晴天でした。

なお、安全に楽しく利用できるマルトの全長1.08m5本針で逆針が円形になっている「やさしいサビキ仕掛け」が、今年も好評でした。(報告 川嶋)



報告 10

水辺感謝の日 大阪湾一斉清掃活動に協力 (R5-10/15)

実施場所は、北港舞洲夢舞大橋・北港舞洲常吉大橋・南港咲洲フェリー乗場周辺・泉佐野食品コンビナートの4個所。一般の釣り人や釣り具メーカ等の関係者計217名の参加があり、9時から11時に900kgのゴミを回収しましたが、この清掃活動は50年以上続いています。

JOFI大阪メンバー4名は、泉佐野食品コンビナートへ。8時30分に集合しました。

主催の日本釣振興会大阪支部橋本俊哉支部長から、「全国で釣り場の閉鎖や立入禁止処置が行われています」「多くが駐車や釣りのゴミ問題等が原因とされています」「これ以上釣り場を減少させないために清掃活動を続けていきます」とお話がありました。

泉佐野食品コンビナートではルールやマナーが守られ

ているのか、一見ゴミ少なかったものの海に流れ込んだペットボトルなどが岩や波消しブロックの間に留まっていました。また、草が生い茂っている所などには相変わらず、弁当ガラや仕掛けの包み紙などが見られ、およそ300kgを回収。その他の3個所では計600kgが回収されたそうです。

清掃活動終了後には、お茶が手渡され子供達にはお菓子が配られ解散となりました。(報告 物部)



報告 11

恒例 弘済みらい・のぞみ園 秋の釣り体験教室 (R5-10/21)

日本釣振興会大阪府支部主催の社会福祉法人みおつくし福祉会「弘済みらい・のぞみ園」秋の釣り体験教室が大阪南港海釣り園護岸で行われました。JOFI大阪スタッフ9名は7:00に集合し、準備を開始。秋は青物釣り師が集まり満員御礼となるため不安でしたが、なんとか大和川尻に約20名分の釣り座を確保できました。

9:00過ぎに生徒18名、付き添いスタッフ3名が到着。日本釣振興会大阪府支部の橋本支部長よりご挨拶をいただいた後、ライフジャケットの正しい着用や「すきすきフィッシング」を使った安全講習など、事故なく魚釣りが楽しめるように配慮を怠りません。



釣り場では生徒3~5名に1人のインストラクターが専属で付く体制で、竿やリールの扱い方からサビキ釣りの基本を覚えてもらい、「エサを入れ、魚を釣り上げ、針をはずしてクーラーボックスにしまう」までができるようになることを目指します。11:00頃から急にアジの活性が上がり、全員が魚を釣り上げることができました。

閉会式ではJOFI大阪から記念の釣り講習参加認定書をお渡ししたことと、1日事故なく、無事に楽しく終了できたことを報告します。

(報告 室井)



報告 12

日本釣振興会大阪支部主催「ファミリー海釣り大会2023」に協力 (R5-10/22)

大阪北港舞洲緑地C護岸での「ファミリー海釣り大会」で、釣り教室と水質調査実施の協力依頼があり6名のインストラクターが参加。当大会は大阪府民の水辺利用促進と、釣りを通して大阪湾の自然保護保持の大切さを学び、魚釣りのルールマナー向上を目的としています。大会には大人43名、子供39名の82名が参加されました。

集合時間の6:30より、招待されている3学園20名分のサビキ仕掛けを竿にセットするなど準備にかかりました。事前に招待者の釣り場を確保されていましたが、例年より釣り人が多く、場所の移動をお願いしたりしながら、招待者の釣り場を確保しました。

3学園到着後は、安全に釣るためのルールやマナー、ライフジャケットの重要性や「自分の命は自分が守る」ことなどを話し、持参されたライフジャケットを全員着用してもらいました。

実釣では時たまアジがかかる程度。招待された子ども達も手持無沙汰となり、10:00から恒例の「釣り教室」と「水質調査」を開催しました。また、11:00からの検寸には、招待者の子ども達も釣れたアジやサバ、コノシロを各々提出し、表彰式の発表を待ちました。

表彰式では日本釣振興会大阪府支部の橋本俊哉支部長より環境維持活動を50年以上続けていること。放流事業、水中清掃のお話。さらに「安全で楽しい釣りがいつまでも続けられるように努力してまいります」との挨拶がありました。(報告 物部)



報告 13

4年ぶりに淡輪ヨットハーバーで 第20回バリアフリー釣り教室を支援 (R5-10/29)

主催のNPO法人み・らいず2様からの協力依頼で、参加者は介護される方などを含め131名。今まで協力した中でも最大のバリアフリー釣り教室でした。安全を一番に、インストラクター15名体制の予定でしたが、病欠があり13名となりました。

ライフジャケットは日本釣振興会東京本部からの支援で140着を準備。竿とリールは80セット用意しました。

最初からサビキ釣りでアジの入れ食いが続き、20cmを超える良型も上がり、笑顔の絶え間がありませんでした。魚はから揚げにいただきましたが、釣った魚を運ぶ人、捌く人、揚げる人、そして食べる人、その魚の美味かったことに全員大喜びされていました。魚拓などもスタッフと参加者共同で作成され記念にされていました。

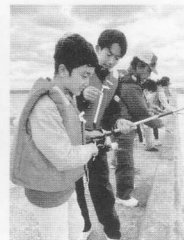
閉会式の講評では、事故なく無事に終了できたことや

参加者の皆様に喜んでいただけたこと、この日の思い出がいつまでも心に残るようにと話しました。

スケジュール通りにいかないこともあり、いろいろと忙しい一日でしたが、今回の釣り教室ではインストラクターの本当の喜びを特に強く感じました。

主催者からは支援のお礼と、来年度も開催したいので協力してもらいたいとの依頼もありました。

(報告 物部)



報告 14

岬町淡輪ヨットハーバーで 南大阪子供釣り体験教室に協力 (R5-11/3)

(株)ライフサポート関西様が主催された、株式会社ダイキン工業労働組合堺支部活動「手ぶらで釣り教室と稲刈り体験」の釣り教室をお手伝いすることになりました。7:00から準備を開始し、参加者は9:00集合、JOFI大阪の紹介、危険な魚の注意、ライフジャケットの全員着用の後安全講習を行いました。

子どもたちが多数参加してくれており、釣りが初めてで魚を触るのも初めてという子どもさんがたくさんいました。ヨットハーバー中央突堤は普段は釣り禁止の場所だけ



あって、この季節は小アジの群れが常時ついており、釣り開始が10:00でもサビキ釣りでいろんな魚が入れ食いとなりました。1時間半程度の教室でしたが、グレ、小サバ、フグなどが釣れるたびに歓声が上がり子どもたちはとても楽しんでくれ、安全に釣りを終えることができました。

子どもたちの笑顔が私たちインストラクターにとって一番の喜びと感じられた一日になりました。

(報告 南)



報告 15

岬町釣り教室にインストラクターとして協力参加 (R5-12/9)

師走にもかかわらず季節外れの暑さの中、岬町淡輪ヨットハーバーにて親子釣り教室が開催され、JOFI大阪から4名のインストラクターが参加しました。

参加者は大人7名・子供6名及びスタッフ1名。インストラクターは6:30に集合し、竿・リール及び仕掛けのセット・アメエビやバケツ・タモなどを準備。海面にはスズメダイなどの群れが見え隠れしています。

8:00にご家族が到着後、ライフジャケットを着用し、針先や魚を持ち帰る時の注意事項や危険な魚などを説明した後、釣り場へ案内します。



サビキよる釣り方の説明後、釣り開始。表層のスズメダイなどの群れを避けて底にカゴを着底させ少しリールを巻きます。

しかしアタリは無く、掛かってもフグやチャリコばかり…。場所を波止先端に移動してもアジやサバは全く釣れません。ようやく、波止の入口でガシラやグレなどが顔を見せ始めました。波止の根元に再度移動してサビキのままガシラやグレ・メバル・ベラなどを全員で釣り上げることができました。

当日は小春日和の中でけがもなく、無事に釣り教室を終了することができました。昼前に教室を終了し、インストラクターで竿やリール・バケツなどを片付けた後、解散となりました。

本年最後の釣り教室でしたが、スタッフやインストラクターの皆さまありがとうございました。(報告 小川)

